
カーリー様が見ている。

雨水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カーリー様が見ている。

【Nコード】

N67980

【作者名】

雨水

【あらすじ】

ごきげんよう皆様。

私立琉璃女学院では当学院の見学会を開催しております。
入学希望の方の参考になれば幸いです。

ごきげんよう皆様、本日はN県C市にて私共が運営しております全寮制の学院、『私立琉璃女学院』にお越しいただきまことにありがとうございます。この学院は、室町時代から砦として使われておりました山を利用して建設されており、守るに易く攻めるに難いと評判の城砦学園でございます。

当学院は、幼稚園から大学までの一貫教育を行う、シヴァ系ザツグ（サギー）・スクールでございます。創始者はベンガル地方から来られた修行者ともバラモンとも伝えられておりますが、それを生きて確かめられた者はございません。

この学院の本丸には、正門を見下ろすように立っており、全長20メートルのカーリー神像がございます。この学院へ、愚かにも攻め込んできた生贄たちを恐怖させ、学院生徒達には熱狂的な力を授けていただくシンボルとして見守っております。また、戦いを前にした乙女達が、山羊を生贄として捧げている風景もよくみられます。

琉璃女学院特有の慣習として、高等部まで生き残ることが出来た生徒には、指導役となる上級生が下級生に試練を与え、それを乗り越えることができたとき『永遠の姉妹』として契りを結ぶこととなります。

通常、『永遠の姉妹』の契りは上級生から下級生へ、剣・縄・三叉戟を与えられる事が多いですが、それが何人もの生贄を神に捧げてきた業物であったり、一度も血を吸った事が無い新たに用意した物であったりと、上級生が下級生への想いによって決められ渡されま

す。

長い歴史の中で当学院は、謂れの無い迫害を受けた時期がございましたが、巷で奇妙な疫病が流行りだしてからは正当な評価をしていただけるようになりました。

少々お話がそれてしまいましたが、疫病についてご説明させていただきますね。え？もうご存知でございますか、でしたら簡素な言葉で表現させていただきますと、それは……。

『ゾンビ』でございます。

噛まれた者はその呪いを受け、地獄の亡者へと変わり果ててしまう恐ろしい奇病でございます。しかし、当学院にとつては常に新しい生贄を手に入れることができ、周辺の住人がとても協力的になってくださいました。これはカーリー神のお恵みかもしれませぬ。

あらあら、いけませんわ。つい長話をしてしまいました、申し訳ございません。そろそろ、朝の正門清掃が始まる時刻になりますので、そちらの矢倉からご覧ください。

「ごきげんよう、お姉様。」

「ごきげんよう、昴。」

漆黒のセーラー服を着た二人の少女が、正門の前で恭しく挨拶をする。一人はお姉様と呼ばれ、長い髪を風に美しくなびかせている。もう一人は昴という名の髪の短い、はつらつとした感じの少女だ。

「昴、身だしなみは正しく整えられていますか？」

「はい、お姉様。」

「清掃の前にカーリー様へ生贄は捧げましたか？」

「はい、お姉様。」

「武器のお手入れは行っていますか？」

「はい、お姉様。」

昴は、最後の返事をした後にお姉様が近づいてきたことで、ちょっとビックリした表情をする。

「昴、暗器が見えていますよ。そんな事では立派な暗殺者になれませんか？」

と言いながら、昴のセーラー服から出てしまっている暗器を外から見えないように直す。

「あっありがとうございます、お姉様。」

「これで、どこに出ても恥ずかしくない殺戮者ですね。昴、正門を開けて清掃を始めましょう。」

「はい、お姉様。」

そう答え、昴という少女は正門の巨大な門を恭しく外す。門が少しずつ開かれると異様な呻き声が湧き上がる。地の底から這い出るような生きる者を呪うような、負の感情を全て集め混ぜ合わせたよう

なおぞましき。その声だけで、普通の人間であれば体がすくみ思考が停止してしまうだろう。

しかし少女達はまるで気にしているようには見えない、優雅に朗らかに微笑をたたえている。

門が完全に開き、外にいた汚らわしい生ける屍達が何十体もなだれ込んでくる。死体でありながら動きはすばやい。死者達はその身にまとう衣装は、ボロボロに破れ破廉恥な姿をさらしている。乾いた血と泥と汚物がこびりつき、腐敗臭と死臭を撒き散らしながら獲物へと殺到する。

「では、参りましょうか昂。」

「はい、お姉様。」

次の瞬間、信じられない光景が目の前に広がる。優雅に優しく彼女達は生ける死者達のもとへ歩いていく。

何もしていない、ただ歩いているだけだ。なのにゾンビ共の頭は胴体から切り離され体は吹き飛ばされどこかへ消えていく。二人の少女は、木漏れ日のなか散策を楽しんでいる姉妹のように微笑み親愛の情を称えながら歩いていく。しかし、その周囲では死者達の頭部だけが残る一方的な殺戮、圧倒的な地獄の世界が繰り広げられている。

数分後。

正門には死者達の頭部だけ残っていた。少女達はまるで花を摘むように死者の頭部を持ち上げ、花の首飾りを作るように、その頭部へ穴を開け紐を通し繋げていく。

あらあら、本日の清掃は少し時間がかかってしまいましたね。やはり見学される方々がいらっしやいますと、あの子らも緊張してしまふようですわ。

そうそう、ここが初めての方もおられると思いますので質問があれば遠慮なく聞いてくださいね。

あまりにも現実離れた世界を見てしまい、思考が追いつかない。とりあえず二つ質問をする、ゾンビの頭部はどうするのか、彼女達はどうかやってあいつらを倒したのか。それだけしか聞けなかった。

日本では、カーリー神の事はあまり知られていませんでしたね、私わたくしとしたことが失念しておりました。カーリー神は倒した敵の首や骸骨を繋げて、ご自身の首に飾られるのです。ですから私わたくしどもは、生贄の頭を繋げてカーリー神に捧げることを日課としております。あと、彼女らの技は、まだまだ荒削りで皆様にご説明するほどの価値がございません、どうかご容赦を。

おや皆様、お帰りになられるのですか？それは残念でございます。当学院の授業風景もご案内したかったのですが、それはまた別の機会と言つことので。

それでは、皆様ごきげんよう。

(後書き)

なんか電波が飛んできて勢いで書いてしまいました。

なんとなくキーワード詐欺ぽいですが、生暖かい気持ちで許してください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6798o/>

カーリー様が見ている。

2011年10月8日01時05分発行